



東洋製罐グループ CSRレポート 2015

Corporate Social Responsibility Report

東洋製罐グループホールディングスのCSRに関するご意見・ご感想をお聞かせください。

● CSRレポートアンケート <http://www.tskg-hd.com/csr/enquete/>

発行・連絡先 CSR室

〒141-8627 東京都品川区東五反田2-18-1 大崎フォレストビルディング

Tel. 03-4514-2303

2015年9月発行



CSR | 2015 REPORT



ひらき、心ときめく

東洋製罐グループは、事業活動を通して社会課題の解決に貢献する。

グループ全従業員は、日々の業務が社会への責任を担っていると認識し、活動する。

これが、東洋製罐グループのめざす CSR 経営です。

「包みのテクノロジー」をベースに、「ひらき、心ときめく」価値を創造し、

持続可能な社会の実現に貢献する企業をめざします。

編集方針

東洋製罐グループでは、持株会社体制のもとに、CSR経営をベースとしたグループ経営を推進しています。

本レポートはステークホルダーの皆さまへ東洋製罐グループのCSRに対する考え方や活動をわかりやすくお伝えすることを旨として作成しました。

東洋製罐グループは、ステークホルダーの皆さまとの誠実な対話とそこから始める行動をCSRの基本姿勢としています。皆さまからのご意見、ご感想をお寄せいただければ幸いです。また、本冊子に掲載されていない情報については、ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.tskg-hd.com/csr/>

基本報告

報告書の対象範囲

東洋製罐グループホールディングスを含む

国内・海外グループ会社

対象期間 2014年4月1日～2015年7月31日

数値データ 2014年4月1日～2015年3月31日

発行

2015年9月（次回2016年9月発行予定）

参考にしたガイドライン

ISO26000(社会的責任に関する手引)

各事業会社の詳しい活動については、下記をご覧ください。

東洋製罐株式会社：サスティナビリティレポート

<http://www.toyo-seikan.co.jp/eco/>

東洋鋼板株式会社：CSR

<http://www.toyokohan.co.jp/ja/csr/index.html>

東洋ガラス株式会社：環境・社会報告書

<http://www.toyo-glass.co.jp/environment/report.html>

東洋興業株式会社：環境レポート

http://www.tokan.co.jp/environment/environment_report.html

日本クロージャー株式会社：環境・社会報告書

http://www.ncc-caps.co.jp/corporation/eco_report.html

東洋マテリアル・テクノロジー株式会社：環境報告書

<http://www.tomatec.co.jp/environment/index.html>

東洋エアゾール工業株式会社：環境について

<http://www.toyoa.co.jp/environment/>

目次

編集方針・基本報告・目次	3
会社概要	4
事業内容	5
東洋製罐グループ関係会社	6
トップメッセージ(読者の皆さまへ)	8
特集1	
あなたの周りに 東洋製罐グループ	10
特集2	
ガラスの持つ可能性を追求し、その実現で社会に貢献する 東洋ガラス	14
グループトピックス	16
マネジメント	18
東洋製罐グループのCSR経営 コーポレート・ガバナンス コンプライアンス リスクマネジメント	
ステークホルダーとのかかわり	23
お客さまとのかかわり	
お取引先とのかかわり	
株主・投資家とのかかわり	
従業員とのかかわり	
地域社会とのかかわり	
地球環境とのかかわり	

表紙デザインについて

今回の表紙デザインは、東洋製罐グループホールディングスのデザイナーが制作しました。同デザイン部門は、容器のグラフィック(印刷)およびプロダクト(形状)デザインと、広告など当社グループのPR活動を行っております。

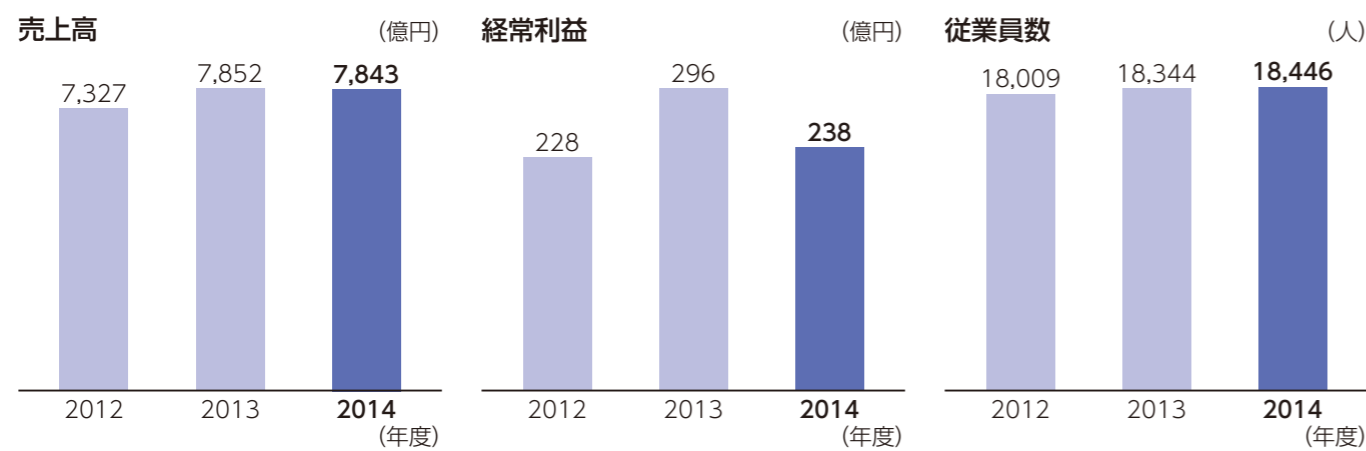
デザインコンセプト

「包み、はぐくむ。」をコンセプトに、やさしく、透明感のあるシルク(絹)で表現しました。シルクには、東洋製罐グループのシンボルマークを想起させるグラデーションを与え、お互いの色が調和するさまは、グループ企業の調和を意味しています。東洋製罐グループは、これからもステークホルダーの皆さまと調和しながら未来へと進んでまいります。

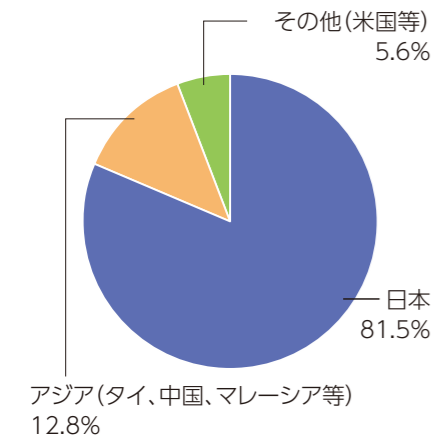
東洋製罐グループホールディングス株式会社

創立 1917年(大正6年)6月25日
代表者 代表取締役社長 中井隆夫
資本金 110億9,460万円
本社 〒141-8627 東京都品川区東五反田2丁目18番1号 大崎フォレストビルディング
従業員数 390名(連結18,446名) 平成27年3月31日現在
事業概要 包装容器関連事業、鋼板関連事業、機能材料関連事業、不動産関連事業、その他

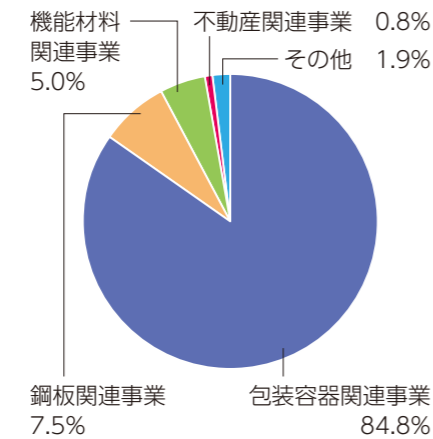
財務データ(連結)



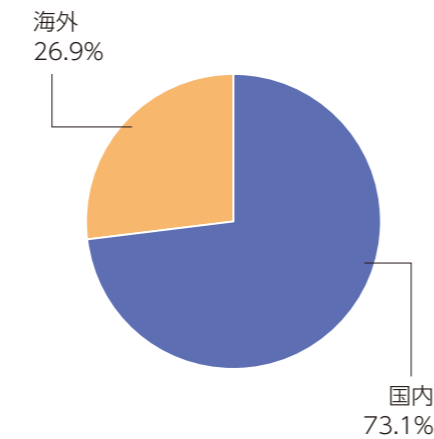
所在地別セグメント(売上高)



事業種別セグメント(売上高)



所在地別セグメント(従業員)



包装容器関連事業

缶詰用空缶やプラスチック製容器をはじめ、キャップ・ガラスびん・紙製容器・エアゾール製品等、日常生活を支える各種包装容器の製造販売を中心に事業を展開しています。



機械設備事業

容器製造用設備・充填巻締設備をはじめとする包装容器関連機械設備等の製造販売を中心に事業を展開しています。



物流事業

主にグループ会社向け貨物自動車運送業や倉庫業等の事業を展開しています。



鋼板関連事業

缶用材料をはじめ、電気・電子部品用材料、自動車・産業機械部品用材料、建築・家電用材料等、暮らしのあらゆる場面で活躍する各種鋼板材料の製造販売を中心に事業を展開しています。



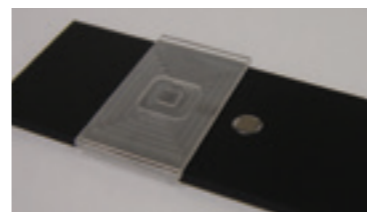
機能材料関連事業

磁気ディスク用アルミ基板・光学用機能フィルム・塗薬・微量元素肥料・顔料・ゲルコート等、多種多様な機能を備えた材料の製造販売を中心に事業を展開しています。



その他

硬質合金・機械器具・農業用資材製品等の製造販売、石油製品等の販売、損害保険代理業および不動産管理業等の事業を展開しています。



新規事業

保有するコア技術を活用し、IT・エネルギー・ライフサイエンス・ナノテクノロジー等の新たな分野へ事業領域を拡大しています。

●東洋製罐グループホールディングス株式会社

本社
総合研究所
イスタンブール駐在事務所(トルコ)

●東洋製罐株式会社

各種空缶・容器・充填設備の製造・販売

●本州製罐株式会社

18リットル缶、缶詰用空缶、美術缶の製造・販売

●日本ナショナル製罐株式会社

飲料用空缶の製造・販売

●琉球製罐株式会社

缶詰用空缶、プラスチックボトルの製造・販売

●ペトリファインテクノロジー株式会社

PETボトルリサイクル事業

●東洋製版株式会社

金属およびフィルム印刷用版の製造

●福岡パッキング株式会社

金属・ガラスおよびプラスチック容器用シーリング剤(密封剤)の製造・販売

●ティーエムパック株式会社

飲料用PETボトル製品の製造・販売

●東洋食品機械株式会社

製缶機械、缶・びん詰め機械、包装機械、食品加工機械の製造・販売

●東洋メビウス株式会社

貨物自動車運送業、倉庫業ほか

●株式会社ジャパンボトルドウォーター

宅配水用容器とサーバーの製造・販売

■株式会社T&Tエナテクノ

リチウムイオン二次電池を主とする電池用外装材の製造・販売

●Bangkok Can Manufacturing Co., Ltd.(タイ)

2ピース缶・アルミ蓋の製造・販売

●Next Can Innovation Co., Ltd.(タイ)

2ピース缶の製造・販売

●Toyo Seikan (Thailand) Co., Ltd.(タイ)

プラスチック製品の製造・販売、飲料用PETボトルの製造・販売および受託充填事業、技術支援センター、グループ会社へのアドミニ業務

●Kanagata (Thailand) Co., Ltd.(タイ)

プラスチック製品用金型の製造・販売

●Global Eco-can Stock (Thailand) Co., Ltd.(タイ)

容器用樹脂被覆アルミ材の製造・販売

●Toyo Mebius Logistics (Thailand) Co., Ltd.(タイ)

貨物自動車運送業

●Malaysia Packaging Industry Berhad(マレーシア)

軟包装材の製造・販売

●広州東罐商貿有限公司(中国)

缶、プラスチック容器の販売

●東洋飲料(常熟)有限公司(中国)

飲料用PETボトルの製造・販売および受託充填事業

●東罐斯多里機械(上海)有限公司(中国)

包装容器製造用機械器具、缶・びん詰め製造用機械器具、その他機械器具の製造・販売

●上海斯多里機械有限公司(中国)

製缶・製蓋機械の販売・各種サービス

●Can Machinery Holdings, Inc.(アメリカ)

持株会社

●Stolle Holdings, Inc.(アメリカ)

持株会社

●Stolle Machinery Company, LLC(アメリカ)

製缶・製蓋機械の開発・製造・販売・各種サービス

●Stolle Europe Ltd.(イギリス)

製缶・製蓋機械の開発・販売・各種サービス

●Stolle Machinery do Brasil Industria e Comercio Equipamentos Ltda.(ブラジル)

製缶・製蓋機械の製造・販売・各種サービス

●Stolle Asia Pacific Co., Ltd(ベトナム)

製缶・製蓋機械の販売・各種サービス

■Asia Packaging Industries (Vietnam) Co., Ltd.(ベトナム)

2ピース缶・アルミ蓋の製造・販売

■Asia Packaging Industries (Vietnam) Trading Co., Ltd.(ベトナム)

2ピース缶・アルミ蓋の販売

●東洋鋼鋳株式会社

ぶりき、薄板および各種表面処理鋼板の製造・販売
磁気ディスク用アルミ基板、光学用機能フィルム等の製造・販売

●鋼鋳商事株式会社

鋼板類とその加工品の販売等

●鋼鋳工業株式会社

帯鋼、結束機等機械器具、硬質合金等の製造・販売および磁気ディスク用アルミ基板の製造

●KYテクノロジー株式会社

建材製品の製造・販売

■東洋パックス株式会社

梱包資材の製造・販売、截断、検定、包装作業請負

■共同海運株式会社

内航運送業、貨物利用運送業、通関業、代理店業

■下松運輸株式会社

貨物自動車運送業、港湾運送業、通運業および倉庫業

■東洋パートナー株式会社

健保会館等福利厚生業務の請負

●TOYO-MEMORY TECHNOLOGY SDN. BHD.(マレーシア)

磁気ディスク用アルミ基板の製造・販売

■上海東洋鋼鋳商貿有限公司(中国)

鋼板関連商品、硬質材料、自動結束機等の販売および付帯サービスの提供

■湖南東洋利徳材料科技有限公司(中国)

鋼板、アルミ、銅およびステンレス等の基材に表面処理を施した製品の研究、開発、製造および販売並びにこれらに付帯する一切の業務

■江蘇東洋鋼鋳新材料科技有限公司(中国)

缶用ラミネート鋼板の製造

■韓国鋼鋳工業株式会社(韓国)

硬質合金、機械器具等の販売

■Tosyalı Toyo Steel CO. INC.(トルコ)

冷延鋼板および表面処理鋼板の製造・販売(表面処理鋼板製造工場の建設を推進中)

●東洋ガラス株式会社

ガラスびんの製造・販売

●東洋佐々木ガラス株式会社

ガラス製ハウスウエア製品の製造・販売

●東洋ガラス機械株式会社

ガラス・プラスチック容器用金型、機械の製造・販売

●東洋ガラス物流株式会社

貨物利用運送業、各種構内作業請負

●東北砂株式会社

砂の製造・販売

●東硝株式会社

ガラス製品の販売

●Toyo Glass Mold (Thailand) Co., Ltd.(タイ)

ガラス製品用金型の製造・販売

●東罐興業株式会社

紙容器製品・樹脂容器製品の製造・販売

●日本トーカンパッケージ株式会社

段ボール製品・紙器製品の製造・販売

●東洋ユニコン株式会社

ダンプラ製品の製造・販売

●東罐興産株式会社

農業用フィルムの製造・販売

●東罐高山株式会社

紙容器製品、紙蓋製品の製造・販売

●東罐ロジテック株式会社

貨物自動車運送業、倉庫業

●株式会社尚山堂

紙器・台紙、紙スプーンの製造・販売

●サンナップ株式会社

紙コップ・紙皿、紙ナプキンの販売

■株式会社タケウチハイパック

段ボール製品・紙器製品の製造・販売

■千里運輸株式会社

貨物自動車運送業

■志田紙工株式会社

合成樹脂製品の製造・販売

●東罐(常熟)高科技容器有限公司(中国)

プラスチック製品の製造・販売

●TAIYO PLASTIC CORPORATION OF THE PHILLIPINES(フィリピン)

プラスチック製品の製造・販売

●T.K.G. CORPORATION(フィリピン)

土地賃貸業

■台湾東罐股份有限公司(台湾)

飲料用紙コップの製造・販売

●日本クロージャー株式会社

金属キャップ・樹脂キャップの製造・販売

●新三協物流株式会社

貨物自動車運送業

●Crown Seal Public Co., Ltd.(タイ)

メタルキャップ・プラスチックキャップ・王冠の製造・販売

●日冠瓶盖(常熟)有限公司(中国)

飲料PETボトル用プラスチックキャップの製造・販売

■NCC Europe GmbH(ドイツ)

飲料用キャップの製造・販売

■PT Indonesia Caps and Closures(インドネシア)

プラスチックキャップの製造・販売

●東罐マテリアル・テクノロジー株式会社

フリット製品、顔料およびゲルコート等の製造・販売

●多瑪得(上海)精細化工有限公司(中国)

無機顔料(複合酸化物顔料)の製造・販売

●多瑪得(廈門)精細化工有限公司(中国)

ほうろう、タイル、陶磁器用のフリット、釉薬、人造大理石用ガラスファイラーの製造・販売

●日龍発展有限公司(中国)

多瑪得(廈門)精細化工有限公司の持株会社

●太星発展有限公司(中国)

多瑪得(廈門)精細化工有限公司の輸出総代理店

●TOMATEC America, Inc.(アメリカ)

無機顔料、フリット等の輸入・販売

●PT. TOMATEC INDONESIA(インドネシア)

フリットおよび顔料の製造・販売

●東洋エアゾール工業株式会社

エアゾール製品・一般充填品の受託製造・販売

●Toyo Filling International Co., Ltd.(タイ)

エアゾール製品の受託製造・販売

■Toyo & Deutsche Aerosol GmbH(ドイツ)

エアゾール製品の製造・販売

●東罐商事株式会社

石油製品・PETボトルリサイクル商品の販売、製缶用鋼材の販売

●東罐共栄株式会社

損害保険代理業、生命保険代理業、不動産賃貸管理業、宅地建物取引業、旅行業

■株式会社リンフォテック

自己リンパ球療法支援、同医薬品化

トップメッセージ(読者の皆さまへ)



2014年を振り返って

2014年の国内経済は、消費税率引き上げの影響などにより、個人消費の持ち直しに足踏みが見られたものの、企業収益や雇用・所得環境の改善など、景気は緩やかな回復基調で推移しました。一方、当社グループにとっては厳しい一年となりました。海外会社の販売が順調であったことに加え、鋼板関連・機能材料関連事業などの販売が順調に推移しました。しかし、消費税率の引き上げや夏場の天候不順などの影響により、主に国内の飲料容器の販売が減少しました。円安の影響による原材料・エネルギー価格の上昇や減価償却費の増加などにより、営業利益は減少しました。その結果、グループ第3次中期経営計画の数値目標と比較して、売上高はほぼ100%でしたが、残念ながら営業利益は目標を大きく下回る結果となりました。

収益力の強化に向けて

本中期経営計画の各年度の実績・見込みについて、売上高はほぼ計画通りに推移する予定ですが、営業利益は初年度のみ数値目標達成という状況であり、収益力の強化が喫緊の課題であると認識しています。つぎの中期経営計画および当社グループの10年後の成長ビジョン「Growing2022」の目標達成への足がかりとなるよう、グループの総力を結集してこの課題に取り組んでまいります。

まず既存事業では、少子高齢化にともなう需要の減少と競合各社との競争激化を見据え、高付加価値製品を開発し市場の開拓に努めるとともに、さらなる収益力の強化を目指し、事業構造改革を推進してまいります。

次に、海外市場については、継続的な投資を行っています。包装容器事業と機械設備事業の垂直展開

をさらに進めるとともにエリア毎の市場環境に応じて事業の選択と集中および適切な資源の再配分を行います。

また新規事業として、「ライフサイエンス・医療」「電気電子・情報通信・エネルギー」などの分野において次世代のコア事業創出に向けた研究開発に取り組んでいます。現在は、主に細胞培養システム事業、遺伝子検査事業、光ファイバレンズ事業について、粘り強く開発・営業活動を進めており、今後売上を拡大させてまいります。

成長を支える創業精神の共有とダイバーシティ(多様性)推進

収益力の強化を進める上で、グループの総力を結集するためのマインドの共有が欠かせません。当社グループには、創業から16年後の1933年に制定された『我社の根本方針』と『従業員服務精神』があります。そこには、会社と従業員が目指すべき方向が示されています。要約して申し上げますと、①我が社の目的は人類を幸福ならしめることである。②事業は営利が目的ではなく、利益は結果であり目的ではない。③顧客ひいてはその先にある消費者に仕える奉仕者・使用人たれ。④品質改良・価格低廉・迅速供給=Q・C・Dを追求することを心がけよ。⑤現状維持は退歩であり、常に勇猛心を持って挑戦し続けること。がうたわれています。ここには、近代経営の目指すべき姿が網羅されています。私たちの成長の基盤は、この創業精神を理解し、実現していくことであると考えます。

私たちを取り巻く環境は大きく変化しています。私たちに求められているのは、環境の変化に対応して、成長の原動力となるイノベティブな製品やアイデアを出し続けることです。こうしたイノベティブな製品やアイデアを生み出すためには、性別、年齢、



国籍、人種などの垣根を越えた多様な従業員の活躍が必要になります。私たちは、ダイバーシティ(多様性)に対する社内の理解を促進するなど、多様な従業員がそれぞれの能力を十分に発揮してそれぞれの分野で生き生きと活躍できるグループを目指してまいります。

創業以来、私たちは「容器を通して人類の幸福繁栄に貢献する」という精神のもとに創造力を発揮し、多種多様な製品・システム・サービスで社会に貢献してまいりました。これからも私たちは永年の歴史の中で培ってきた高い品質と技術力を活かし、身近な製品を通してステークホルダーの皆さまの快適で豊かな生活の実現に貢献し続けてまいります。

今後とも皆さまのご支援・ご指導をよろしくお願い申し上げます。

東洋製罐グループホールディングス株式会社
代表取締役社長

中井隆夫

特集1.あなたの周りに 東洋製罐グループ

東洋製罐グループの製品が、日常の身近なシーンで活躍しています。おやつ、こんなところにも？



紙コップ
プラスチックコップ



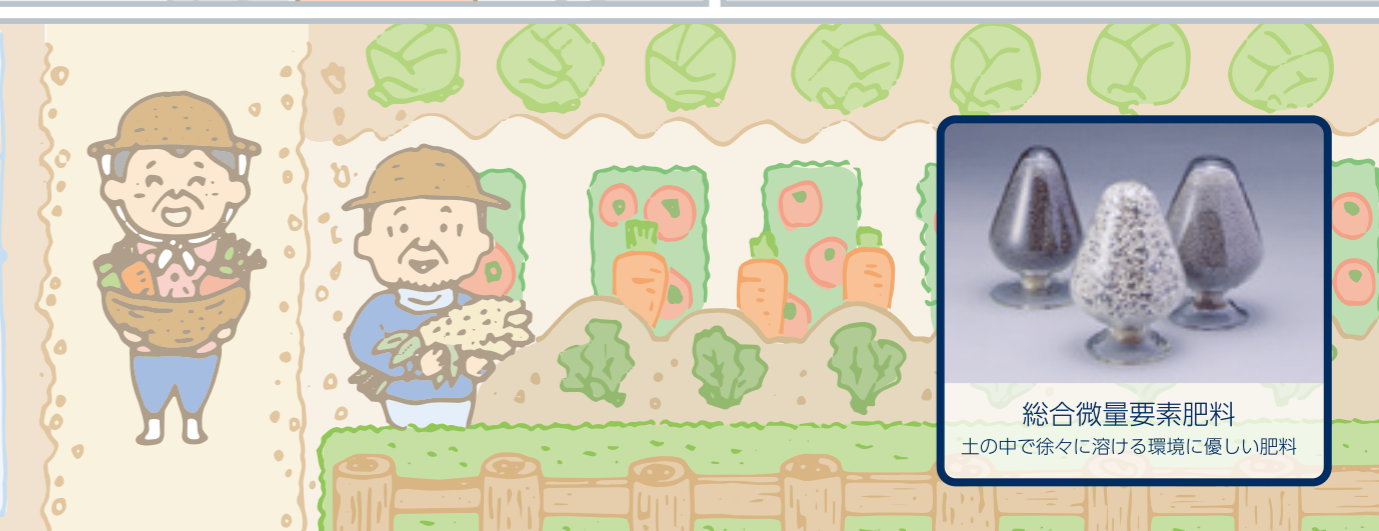
飲料用のびんとキャップ
コーヒーのコップ



段ボール



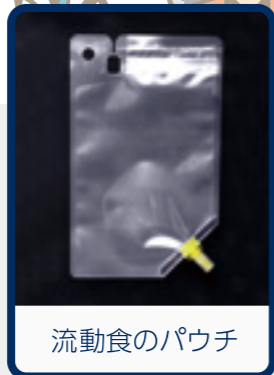
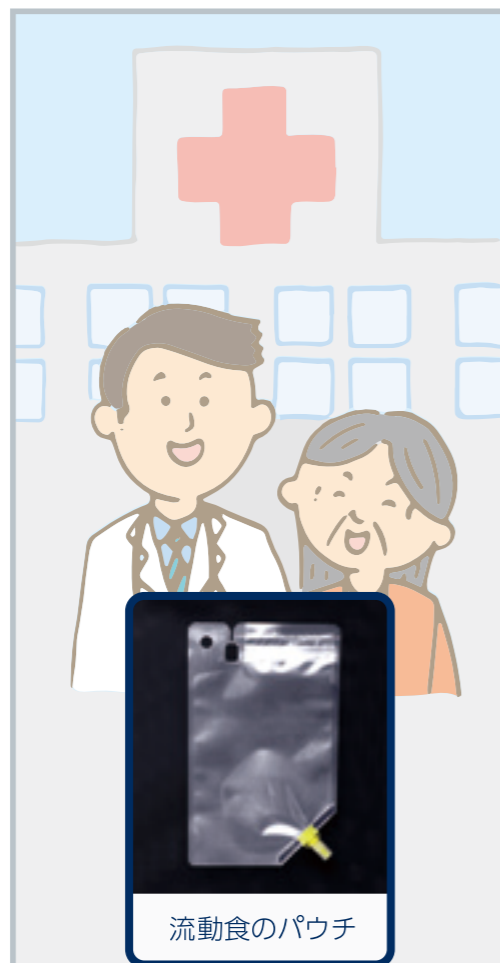
農業用ハウス



総合微量元素肥料
土の中で徐々に溶ける環境に優しい肥料



自動細胞培養システム
活性化自己リンパ球療法で用いる
細胞を自動で培養するシステム



流動食のパウチ



王冠
お酒のびんとキャップ



びん・PETボトル・缶



ペットフードの缶



ジャム・牛乳・日本酒のびん



アイスやヨーグルトのコップ



食品用プラスチック容器とキャップ



磁気ディスク用
アルミ基板

デスクトップPCやサーバー、デジタル家電を中心に使用されています



コップ・グラス



電池缶用材



冷蔵庫扉材

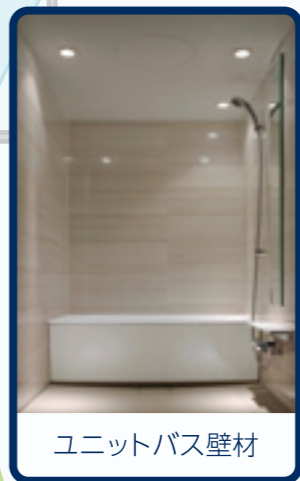


人造大理石
キッチンカウンター



ほうろう製品

鍋などの金属の表面の耐酸・アルカリ性を強化するうわぐすり



ユニットバス壁材



洗剤のボトル
詰め替え用のパウチ



気密封止用ガラスペースト
複数ガラスの気密を保持します



18リットル缶



ハイブリッドカー用の
電池部品材



ダッシュボード向けの
着色剤
自動車の内装等に使用
している樹脂を着色します

衛生陶器用フリット
陶器の表面をツルツルにして
汚れを付きにくくします



染毛剤用の缶・充填

特集2 . ガラスの持つ可能性を追求し、 その実現で社会に貢献する



東洋ガラスは1888年、ガラス容器メーカーとして誕生して以来「ガラスびんの持つ可能性を追及し、生活文化の向上に貢献する」ことを基本として、ガラスびんから各種ガラス関連製品を製造販売するメーカーへと成長してきました。その間、経営理念に込められた技術の開発、環境対策への取り組み、働く人たちの活力のある職場づくり、世界との交流を展開してまいりました。これからも、この経営理念を基軸に持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

- 経営理念**
- ①生活文化の向上に役立つ、使いやすく優れた各種ガラス製品を社会に提供する。
 - ②時代の変化に対応する、周辺技術の展開と新製品の開発を行う。
 - ③美しい地球環境を守り、資源の有効活用を積極的に推進する。
 - ④良い環境と活力ある職場をつくり、福祉の充実をはかる。
 - ⑤世界との交流を深め、相互の発展に寄与する。

1 ユニバーサルデザインへの取り組み

年代、性別等を越えて、全ての生活者に対して安全で使いやすいことを基本とするユニバーサルデザイン。当社ではこのユニバーサルデザインをコンセプトとした開発に積極的に取り組んでいます。2000年に超軽量牛乳びん(写真左:900ml)、2001年には50%軽量牛乳びん(写真右:200ml)がグッドデザイン賞ユニバーサルデザイン賞を受賞して以降、数多くのユニバーサルデザインの製品を世の中に提供しており、今後も安全で使いやすいガラスびんの提供に努めてまいります。



2 加工技術(多色印刷)

ガラスびんは、他容器に比べ造形・加飾の面で非常に自由度の高い容器です。当社では新しい多色印刷機を導入し、高精度な印刷技術を取り入れ、創り手のこだわりを最大限に表現することも可能になりました。この技術で生活文化の向上に貢献してまいります。



3 環境への取り組み

当社の環境対策への取り組みは40年以上前の自治体のガラスびんリサイクル支援活動まで遡ります。また、業界に先駆けて1998年を皮切りに、ISO14001の認証取得を開始し、2001年には、全社統合認証を取得いたしました。さらに、製品においてもリデュース(軽量化)・リユース(リターナブル)・リサイクル(再生原料の使用)に適した製品を数多く提供してまいりました。

今後も、3Rに適したガラスびんを通して持続可能な社会の実現に貢献してまいります。



4 活力のある職場づくり

言うまでもなく、企業は人で成り立っています。東洋ガラスで働く人々が満足するような企業でなければなりません。そのための人事制度・作業環境の充実に努めてまいります。また、新しいことにチャレンジできる風土づくりも推進してまいります。



5 世界との交流

当社は長年のガラスびん製造の経験と技術に基づき、技術援助、設備・機器の販売、プラント輸出という形で世界のガラスびん産業に貢献してまいりました。現在、技術援助に関しては、2カ国・2社への援助を行っております。また、設備・機器の販売、プラント輸出については、稼働後のオペレーション指導も行っています。今後も、世界と人・物・技術を通して交流してまいります。



2014年度 東洋製罐グループの受賞製品のご紹介

東洋製罐グループ各社が開発した容器包装製品は、2014年度も国内外から高い評価を受けました。機能性・使いやすさの向上、環境負荷の低減、さらにはデザイン性を追求した製品が多くの賞を受賞しました。今後もグループシナジーを発揮し、お客さまのニーズに合った容器を提案してまいります。

■木下賞 「研究開発部門賞」

■「青木固」技術賞

東洋製罐、東洋製罐グループホールディングス
(味の素ゼネラルフーズ株式会社殿と共同受賞)

■日本パッケージングコンテスト「パッケージデザイン賞」

■アジアスター賞

東洋製罐
(味の素ゼネラルフーズ株式会社殿と共同受賞)

■微細発泡PETボトル [Fi-Cell(ファイセル)]

微細発泡による光沢感ある白色パール調の美しい外観と、紫外線・可視光線を最大90%カットする遮光性が特長のリサイクル対応型PETボトルです。



■日本パッケージングコンテスト 「アクセシブルデザイン包装賞」

■スライズ・ヒネル・ボトル

■東洋興業

“ひねる”だけで簡単に開栓できる「ヒネルキャップ」に、肩部を押すことで内容物の粘度にかかわらず吐出量の調整が容易なスライズボトルを組み合わせました。



■最も権威ある国際的パッケージデザインコンペティション

■Pentawards2014

「BRONZE(銅賞)」

■えだ豆容器

東洋製罐グループホールディングス



■グループ力で東北復興に貢献

■おいしい東北パッケージデザイン展2014「優秀賞」

■タムラファーム株式会社殿 スパークリング果汁りんご100% びん・ラベルのグラフィック

東洋製罐グループホールディングス

容器は東洋ガラス製、キャップは日本クロージャー製で商品化



■平成26年度資源循環技術・システム表彰 「経済産業省産業技術環境局長賞」

■第2回食品産業もったいない大賞「食料産業局長賞」

■新充填方式NSシステム

東洋製罐
(株式会社伊藤園殿と共同受賞)
株式会社伊藤園殿と東洋製罐で共同開発した新しい無菌充填方式です。省資源化の推進や環境負荷の低減となる点が評価されました。

※NS: "Non-Sterilant" (ノン・ステリラント = 殺菌剤を使用しない)の略



■2014年度 グッドデザイン賞

■キッチンデリ、ポッテ

東洋佐々木ガラス

積み重ね可能で、収納に便利な機能性や使いやすさが評価されました。



キッチンデリ



ポッテ



■国内パッケージデザイン最高峰のコンテスト

■日本パッケージデザイン大賞2015「入選」

■キューピー株式会社殿 スタイリングソース ボトル形状

東洋製罐グループホールディングス



■日本パッケージングコンテスト 「適正包装賞」

■箱の変形を防止したハンガーディスプレイ

日本トーカーパッケージ

つり下げタイプの箱の変形を防止するため、ひもを通す穴とスリットの位置を工夫し、中の製品を取り出しやすくしました。



■日本パッケージングコンテスト 「パッケージデザイン賞」

■柿用ディスプレイ

日本トーカーパッケージ

積積み輸送での製品安定性を考慮し、スタッピング性を高めた柿用の手組トレイです。柿を模した窓で視認性をアップしました。



■日本パッケージングコンテスト 「輸送包装部門賞」

■紙パック×12本入り イージーオープンケース

日本トーカーパッケージ(株式会社伊藤園殿と共同受賞)

従来の天面から開封する構造を、側面部も開封する形状に改良。ワンアクションで開封でき、冷蔵庫内でも製品が取り出しやすくなりました。



■日本パッケージングコンテスト 「工業包装部門賞」

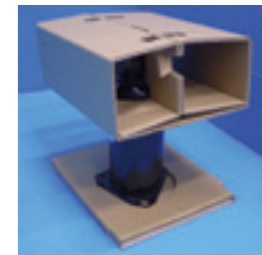
■コンプレッサーの段ボール包装

日本トーカーパッケージ

(パナソニック株式会社殿、

美浜株式会社殿と共同受賞)

これまでの固定方法を刷新することで、製品の形状・サイズを問わず固定パットの集約が可能となり、規格化を実現しました。



■各賞の説明

【木下賞】公益社団法人日本包装技術協会主催 包装に関する研究・開発や改善・合理化、新規分野の創出において顕著な業績をあげたものが表彰される。
【青木固技術賞】一般社団法人プラスチック成形加工学会主催 プラスチック成形加工技術において、独創的かつ創造性の高いものが表彰される。
【日本パッケージングコンテスト】公益社団法人日本包装技術協会主催 優れたパッケージとその技術を開発・普及することを目的に開催される、包装分野における国内最大のコンテスト。
【アジアスター賞】アジア包装連盟主催 アジア各国の優れたパッケージを世界に紹介することを目的として開催。各国の国内コンテストにおいて入賞したパッケージだけがエントリー可能。
【資源循環技術・システム表彰】一般社団法人産業環境管理協会主催 廃棄物の発生抑制、再利用、再資源化に資する高度な技術または先進的なシステムの特徴を有する優れた事業や取り組みの奨励・普及を図る事を目的としている。
【食品産業もったいない大賞】一般社団法人日本有機資源協会主催 食品産業の持続可能な発展に向け、地球温暖化・省エネルギー対策である「熱の有効利用」「運送システムの効率化」「食品ロスの削減」「事業者間による連携」「消費者と連携した取り組み」等、顕著な実績をあげている企業、団体および、個人を広く表彰することで、地球温暖化・省エネルギー対策を促進する取り組みを推進。
【グッドデザイン賞】公益財団法人日本デザイン振興会主催 暮らしと産業、社会全体を豊かにする「よいデザイン」が表彰される。
【Pentawards(ペントアワード)】Pentawards主催 包装技術・パッケージデザインの普及を目的に開催される国際デザインコンペティション。
【おいしい東北パッケージデザイン展】東北経済産業局、公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会主催 パッケージデザインを通じた東北復興の支援を目的に開催されるデザインコンペティション。
【日本パッケージデザイン大賞】日本パッケージデザイン協会主催 パッケージデザインの社会的地位向上を目的に開催されるデザインコンペティション。

新規拠点・グループ会社のご紹介

東洋製罐グループは、地域とともに成長してまいります。

■高槻物流センターの開設

■東洋メビウス株式会社

2015年1月、大阪府高槻市に物流・製造・加工等の複合的な機能を備えたマルチテナント型の「高槻物流センター」を竣工しました。

この地域は、大阪・京都の中間地点に位置し、2017年には新名神高速道路、高槻インターチェンジの開通が予定されています。これを契機として地域の活性化を目指す高槻市とともに、関西圏の物流拠点として、地域とともに成長してまいります。また、地域に密着した施設として、災害時には本センターを一時避難場所として地域住民の皆さまに提供することとしています。



高槻物流センター

■台湾東罐股份有限公司の設立(台湾)

■東洋興業株式会社

2015年6月23日、台湾宜蘭縣に合弁会社「台湾東罐股份有限公司」を設立しました。台湾をはじめとする、成長著しいアジア地域への海外事業展開を目的として、飲料用紙コップの製造販売に取り組みます。



調印の様子：右から、永吉興業股份有限公司 董事長 林燦堂氏、東洋興業株式会社 代表取締役社長(当時) 筒井栄二、帝旭國際商社有限公司 董事 林雯雯氏

東洋製罐グループのCSR経営

東洋製罐グループは、包装容器製造をコアとする事業を通して社会へ貢献してきました。私たちは、「誠実で公正な事業活動を通して、人類の幸福繁栄に貢献しつづける」をグループCSR経営のビジョンに掲げ、全てのステークホルダーに向き合いながら、「世界に信頼される東洋製罐グループブランド」の確立を目指してまいります。

東洋製罐グループ経営ビジョン

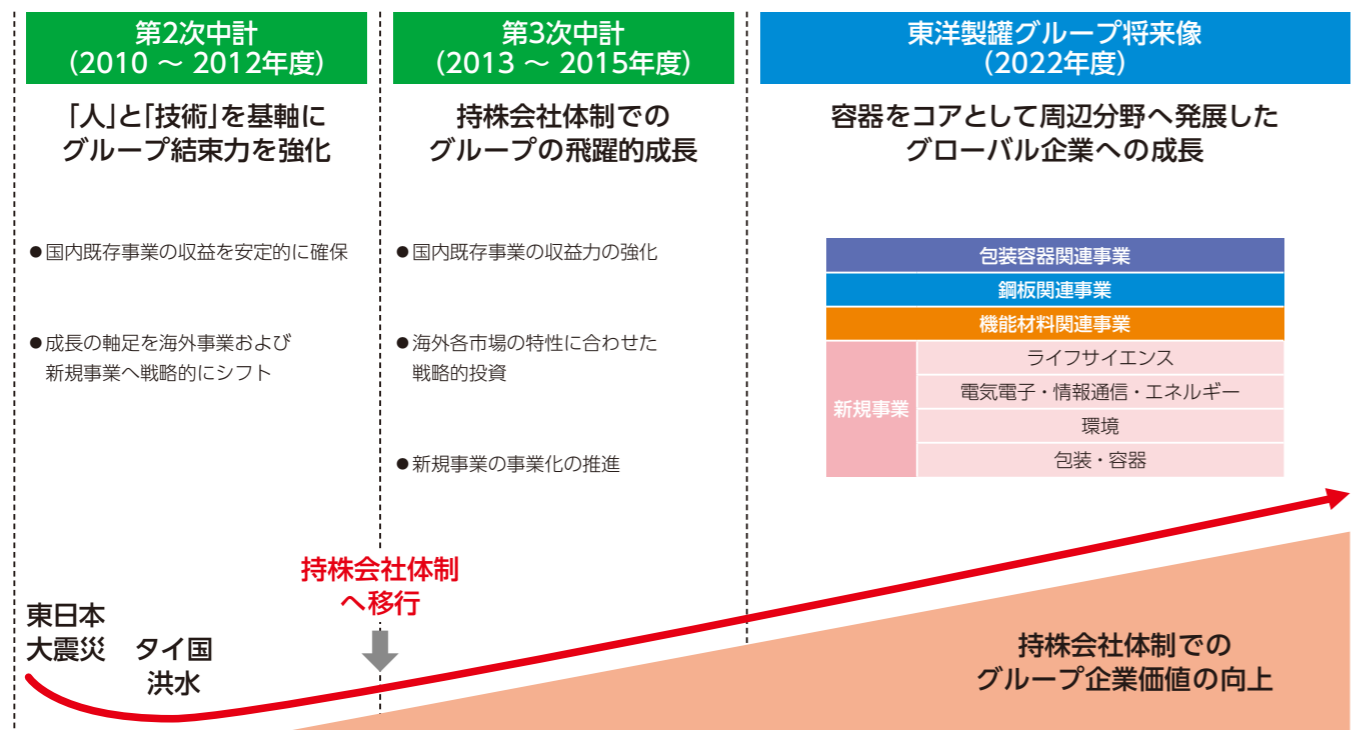


「包みのテクノロジー」を基軸として、人類の幸福繁栄に貢献する世界の先進プロフェッショナル企業を目指します

1. 生産と消費の橋渡し機能を持つ包装容器の無限の可能性を追求します
2. 「生産・充填包装・流通・消費・回収再生」に亘って環境を更に重視したソリューション企業グループを確立します
3. 他社の追随を許さない技術立社を目指します

東洋製罐グループ中長期成長ビジョン

2013年、東洋製罐グループの10年後の成長ビジョンとして「Growing 2022」を制定し、その実現に向けて2013～2015年度までの第3次中期経営計画をスタートしました。



東洋製罐根本方針

1933年(昭和8年)、創業者高碓達之助は「東洋製罐の使命」という小冊子の中で、創業の理念を根本方針として明文化し、株主、従業員、業界関係者に配布しました。以来、東洋製罐グループは、この根本方針のもとに私たちの使命を果たしてきました。東洋製罐グループのCSRの原点がここにあります。

- 一、我社の目的は人類を幸福ならしむる結果を齎す所になければならぬ。
- 二、事業は営利が目的でなく利益は結果であり目的でない。
- 三、自己の受持により各自が奉仕の精神を尽し此の精神を団体的に発揮する事に努め、自己の繁栄をねがうと同様に関係業者の繁栄に努力しなければならぬ。

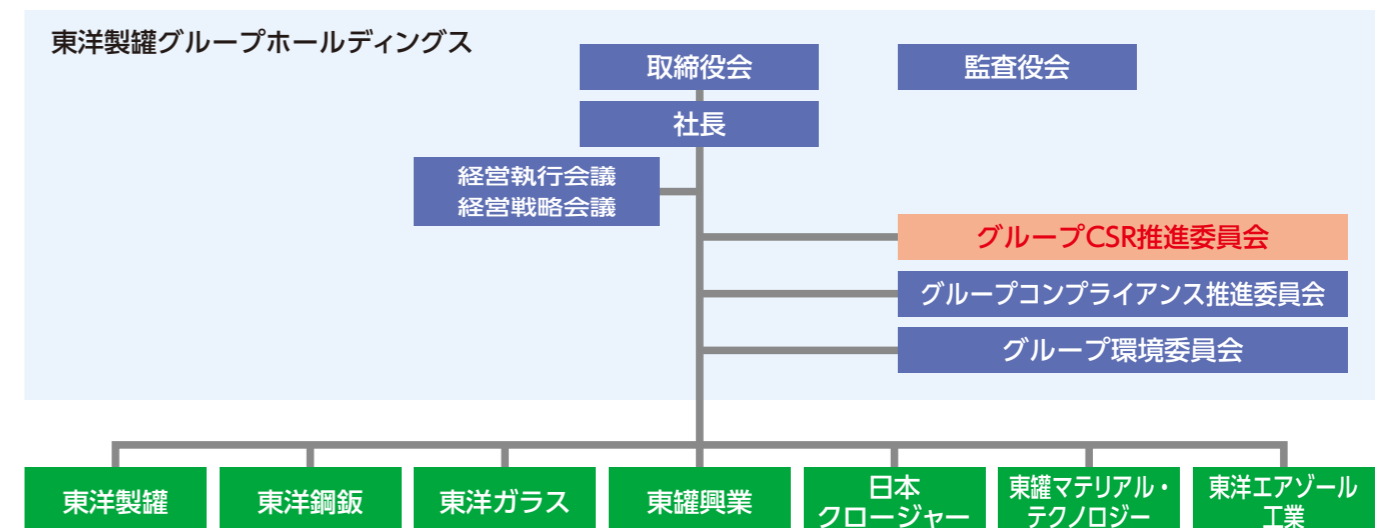
グループCSR基本方針

東洋製罐グループのCSRとは、「誠実で公正な事業活動を通して、人類の幸福繁栄に貢献しつづけること」です。東洋製罐グループで働く一人ひとりが、CSR精神を理解し、全てのステークホルダーに対応します。

全てのステークホルダー	全ての人の基本的人権と多様性を尊重し、誠実に対話し、行動します。
お客さま	お客さまの信頼に応える安全・安心な製品・システム・サービスを提供します。
お取引先	常に高い倫理感を持って公平・公正・透明な事業活動を行います。
株主・投資家	企業価値の向上に努め、情報の適正な管理と開示を行います。
従業員	安全かつ衛生的で元気あふれる職場をつくります。
地域社会	地域社会との共生を目指して、地域での交流を大切にします。
地球環境	地球環境の保全と質的改善に、積極的に取り組みます。

グループCSR推進体制図

東洋製罐グループのCSR活動全体を統括するために、グループCSR推進委員会を設置しました。同委員会は、東洋製罐グループホールディングス社長を委員長とし、同社の役員および各事業会社社長を委員として構成します。



コーポレート・ガバナンス

東洋製罐グループは、誠実で公正な事業を行うため、コーポレート・ガバナンスの充実に努めています。

コーポレート・ガバナンスの考え方

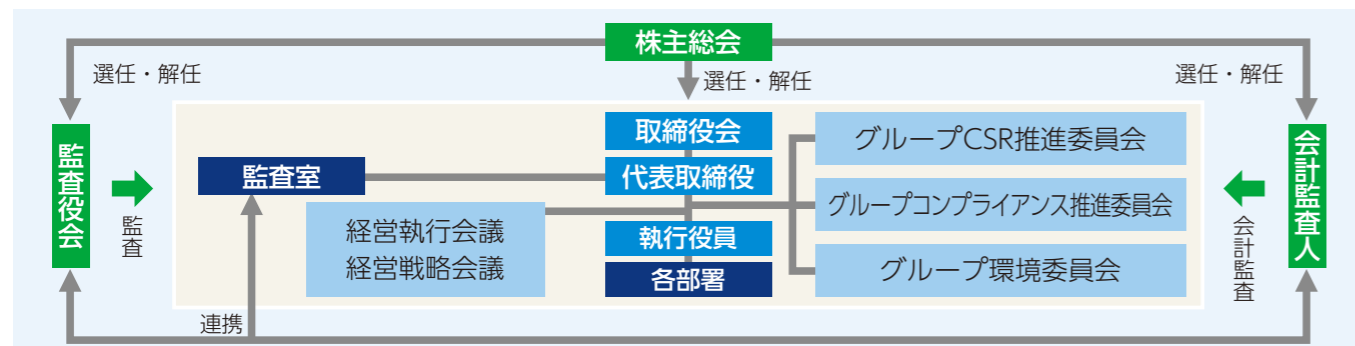
東洋製罐グループホールディングスは、創業以来、「容器を通して人類の幸福繁栄に貢献する」ことを企業理念に掲げ、企業価値の向上を図ってまいりました。当社は、経営環境の変化に柔軟に対応し、持続的な発展と進化を可能とするために、コーポレート・ガバナンスを充実させていくことが経営上の重要課題であると位置づけ、継続的に取り組んでいます。

また、2015年6月1日に適用が開始されたコーポレートガバナンス・コードの内容を踏まえ、さらなるコーポレート・ガバナンスの強化を図り、持続的な成長と企業価値の向上を目指してまいります。

企業統治の体制

当社の取締役会は取締役9名で構成されており、そのうち独立性を有する社外取締役は3名であり、取締役会における社外取締役の人数は3分の1を占めています。当社は東京証券取引所に対し、社外取締役3名全員を独立役員として届け出しています。取締役会は原則として月1回開催するほか、必要に応じて臨時に開催し、経営に関する重要事項等を決定しています。また、取締役の経営責任を明確にし、経営環境の変化に迅速に対応できる経営体制を機動的に構築するために、取締役の任期は1年としています。監査役会は監査役5名で構成されており、そのうち独立性を有する社外監査役は3名です。監査役会は、原則として月1回および必要に応じて随時開催しています。

コーポレート・ガバナンス体制図



これら社外取締役および社外監査役による、取締役会における積極的な意見の表明とそれにとまなう活発な議論は取締役会の活性化につながっています。当社は、独立した客観的な立場にある社外取締役や社外監査役による経営陣のモニタリングと、株主による毎年の取締役選任議案審議を通じたモニタリングによって、当社経営体制に対するモニタリングを確保しています。

経営会議による戦略立案と業務執行

当社においては、執行役員制度を導入することにより、経営の効率性・機動性を確保するとともに、経営の意思決定・監督機能と業務執行機能の明確化を図っています。経営の基本方針および諸施策を適切かつ迅速に確立し、経営活動を強力に推進するために、常勤取締役、機能統轄責任者、専務執行役員および常務執行役員により構成される「経営戦略会議」を月1回開催し、常勤取締役、機能統轄責任者、専務執行役員、主力事業会社社長および準主力事業会社社長により構成される「経営執行会議」を月2回開催しています。

内部監査

法令を遵守した企業活動の徹底を図り、経営の効率性を高めるために、社長直轄の内部監査部門として監査室を設置しています。東洋製罐グループ全社を対象に、各社の内部管理体制の整備および運用状況を定期的に監査することで内部統制機能の向上を図っています。

コンプライアンス

東洋製罐グループは、社会の信頼に応えるために、グループ全体でコンプライアンス推進体制をととのえています。

グループコンプライアンス推進体制

東洋製罐グループは、東洋製罐グループホールディングスの社長を委員長とし、主要なグループ会社10社の社長を委員とするグループコンプライアンス推進委員会を設け、コンプライアンス意識の浸透・定着、違反行為の未然防止・早期発見、原因究明・是正・再発防止等を図るため、組織横断的、機動的にコンプライアンス活動を実施しています。また、東洋製罐グループの従業員等が、あらゆる企業活動において、「常に謙虚に、正しい行動」をとり、社会的な責任を果たしていく基本的な姿勢を示した東洋製罐グループ企業行動憲章を定め、グループ各社では本企業行動憲章に基づいた企業行動規準をそれぞれ定めています。

2014年度の主な活動実績

●コンプライアンス推進月間活動の実施

毎年10月を「グループコンプライアンス推進月間」と定め、東洋製罐グループが一丸となって推進活動に取り組んでいます。

- グループコンプライアンス推進委員長メッセージ配信
- スローガン「社会の変化に敏感に対応した正しい行動を実践しよう!」
- 推進月間PRポスター掲示・グループ各社社内報掲載
- コンプライアンスチェックリスト作成・配布・実施



●コンプライアンス研修

コンプライアンス推進活動の一環として、次の研修会を実施しました。

- グループコンプライアンス研修会「異文化コミュニケーション」
講師：明治大学政経学部 海野素央教授
- グループ新任役員法務研修会「取締役・執行役員の地位と責任」
講師：河村法律事務所 豊泉貴太郎弁護士



グループコンプライアンス研修講師：海野素央教授

●倫理および法令遵守の誓約書提出

東洋製罐グループ各社の役員は、毎年倫理および法令遵守に関する誓約書を提出しています。

●グループコンプライアンス推進委員会・実務責任者会議の開催

グループ各社におけるコンプライアンス推進活動状況の確認・情報共有、問題事例等を共有するため、グループコンプライアンス推進委員会および実務責任者会議をそれぞれ開催しました。

●グループ各社における取り組み

グループ各社においては、飲酒運転、インサイダー取引、ハラスメント、下請法等に関する勉強会開催・情報発信や、社内規定・ルール制定・改定等を行いました。また、東洋製罐グループが遵守すべき指針・注意すべきポイント等をまとめた「独占禁止法遵守ガイドライン」を作成・配布し、本ガイドラインに基づいて研修会等を開催しました。

2015年度の主な活動計画

東洋製罐グループは、2015年度の活動計画として次の項目を掲げています。

●コンプライアンス上のリスク対策の取り組み

- グローバルコンプライアンスの取り組み

●内部統制システムの運用状況の点検等

- 会社法改正対応

●コンプライアンス教育・研修

- グループ新任役員法務研修会
- グループコンプライアンス研修会

●コンプライアンス推進月間活動

- コンプライアンス意識向上のための取り組み

●倫理および法令遵守の誓約書提出

●コンプライアンス情報共有化

- 他社コンプライアンス事件・事故事例の配信
- グループ各社コンプライアンス活動状況の配信
- 法令情報の配信

社外相談窓口

東洋製罐グループでは、従業員等からのコンプライアンス違反行為に関する通報や相談に応じる窓口として、社外に「企業倫理ホットライン」および「セクハラ・人間関係ホットライン」を設置するとともに、通報や相談に対する適正な処理の仕組みを定めています。なお、社外相談窓口のPRポスターを毎年作成し、グループ各社の事業所内に掲示して周知しています。



リスクマネジメント

東洋製罐グループは、継続的な事業活動の実現、経営基盤の安定化のため、リスクマネジメントに取り組んでいます。

リスク管理体制

東洋製罐グループは、「東洋製罐グループ リスク管理および危機対策に関する基本方針」に基づきリスクマネジメントに取り組んでいます。

グループ全体のリスクマネジメントは、東洋製罐グループホールディングスの経営執行会議等を通して、状況を確認し、改善および予防措置を講じています。

グループ各社は、それぞれの推進体制のもとでリスク管理方針や基本計画の策定、会社全体のリスクマネジメント状況のとりまとめ等を行っています。

事業会社のリスクマネジメント組織

東洋製罐グループの事業会社各社では、リスクマネジメント組織を設置し、リスク発生の未然防止、顕在化したリスクからの事業活動の早期復旧に取り組んでいます。

- 東洋製罐：総合リスク対策委員会
- 東洋鋼鋳：リスク管理委員会
- 東洋ガラス：コンプライアンス推進委員会、情報セキュリティ委員会
- 東洋興業：リスク・コンプライアンス委員会
- 日本クロージャー：リスク・コンプライアンス委員会

事業会社の重要リスク

東洋製罐グループの事業会社各社では、業務執行の阻害要因となりうる重要リスクを認識し、リスクマネジメント組織を中心に、対応しています。

会社名	想定される重要リスク
東洋製罐	コンプライアンス、品質、環境、債権回収、情報セキュリティ、自然災害・事故、カンントリー
東洋鋼鋳	コンプライアンス、生産・設備・品質、販売、安全・衛生・防災、環境、情報
東洋ガラス	コンプライアンス、自然災害・事故、環境、品質、情報セキュリティ、債権回収、カンントリー
東洋興業	コンプライアンス、品質、環境、債権回収、情報セキュリティ、自然災害・事故、カンントリー
日本クロージャー	コンプライアンス、自然災害・事故による重大な損失、情報セキュリティ、品質、環境

事業会社の取り組み

●コンプライアンス上のリスク対策(東洋興業)

●テレマティクスサービスの導入

2013年度より、一部の営業車両にテレマティクスサービスを導入しました。

このサービスによって、車両、運転手毎の走行距離や時間、危険挙動(速度超過、急加速、急減速)に関する走行データを取得、蓄積し、情報を共有することで安全運転意識を高め、コンプライアンス強化につなげています。

また安全運転を徹底することで、エコドライブが実現し、燃費の向上、CO₂削減にも寄与します。



●自然災害・事故リスク対策(東洋ガラス)

●安否確認システムの導入

災害が発生したときに従業員の安否を把握することや風水害による人的・物的被害の状況を把握することは、大変重要であると考え、2014年度から安否確認システムを導入しました。従業員の安否確認や救援・救助の必要がある従業員への対応、また風水害が発生した際の被害状況等の収集に利用し、指示・連絡等に役立てます。

同様のシステムを、東洋製罐グループホールディングス、東洋製罐、東洋鋼鋳、東洋興業、日本クロージャーでもすでに導入しています。

お客さまとのかかわり

お客さまの信頼に応える安全・安心な製品・システム・サービスを提供します。

東洋製罐グループは、長年にわたり蓄積した経験・技術・ノウハウを活用し、お客さまや社会のニーズに応える製品・システム・サービスの開発、提供に努めています。

品質保証体制

東洋製罐グループの品質保証体制は、グループ各社の事業活動において管理、運用しています。創業当時からあるべき姿として掲げてきた、「品質優良」「価格低廉」「迅速供給」の精神で、お客さまの信頼に応えるため、事業会社各社は、開発・調達・製造・販売・サービス全てのプロセスにおいて、常に時代に合った品質の確保・向上に取り組んでいます。



事業会社の品質マネジメント組織

東洋製罐グループの事業会社各社では、品質マネジメント組織を設置し、品質管理のレベル向上に取り組んでいます。

- 東洋製罐：中央統合マネジメントシステム委員会
- 東洋鋼鋳：品質管理委員会
- 東洋ガラス：統合マネジメントシステム委員会
- 東洋興業：中央品質委員会
- 日本クロージャー：品質保証部

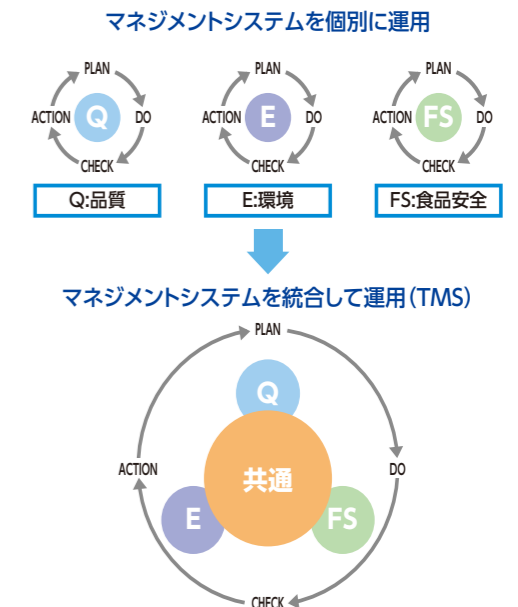
マネジメントシステムの構築

東洋製罐グループの事業会社各社では、品質マネジメントシステム (ISO9000) を構築し、品質の確保、向上に取り組んでいます。また、食品向け容器の製造販売を行う各社では、より安全、安心な製品の提供、フードチェーン全体におけるお客さま満足向上に向け、食品安全マネジメントシステム (FSSC22000) を順次構築しています。

事業会社の取り組み

●マネジメントシステム

品質マネジメントシステム (ISO9001)、環境マネジメントシステム (ISO14001)、食品安全マネジメントシステム (FSSC22000) について、東洋製罐では2013年7月、東洋ガラスでは2015年1月に複数サイト運用で、複合審査での認証を取得しました。マネジメントシステムの統合により、重複業務を省き、個別最適から全体最適へと視野を広げ、マネジメントシステムと事業活動とが融合した「活かしたシステム」で、お客さまに信頼されるものづくりを推進しています。



お客さまとのかかわり

技術開発の取り組み

東洋製罐グループでは、お客さまのさらなる満足と信頼を得るため、包装・容器市場の多様化するニーズに応える高付加価値の製品・技術・システム・サービスの研究・開発に努めています。さらに、長年にわたり蓄積した技術と先端技術を活用して、新たな市場の創造と新規事業の創出に取り組んでいます。

新規事業への取り組み

東洋製罐グループは、グループ各社が有する包装・容器分野のコア技術やその周辺技術、さらにはそれらを統合したソリューション力を基本に、各分野での最先端の技術開発を推進し、ライフサイエンス・医療、電気電子・情報通信・エネルギー、環境等の分野において次世代のコアと成り得る新規事業の創出を目指しています。

事業展開を推進している新規事業

CANACCS (高効率自動細胞培養システム)

がんの再発・進行の防止が期待できる活性化自己リンパ球療法を行っているリンフォテックとともに、東洋製罐グループのプラスチック容器開発・製造の知見を活かして開発した自動細胞培養システムです。細胞増殖性の高いガス透過性培養バッグや高气密性を達成した国産初の培地用PETボトルを発売しました。さらに、高効率・高品質培養を可能にする自動細胞培養装置・バッグキットの開発を行っています。



培養バッグ



培地用PETボトル



自動細胞培養システム

GENOGATE (DNAチップでの食品衛生検査)

東洋鋼鋳で開発した高性能DNAチップと、東洋製罐グループが保有する微生物制御技術を活用した新しい検査技術です。食品工場等の施設において、人体および食品に悪影響を及ぼす「食中毒菌」や「カビ」を一括して検出することができます。

<農林水産省プロジェクト事業>
平成26年度緑と水の環境技術革命プロジェクト事業
「DNAチップによる食中毒菌検出キットに関する妥当性確認試験」において、GENOGATEが高い評価を受けました。



蛍光検出

シリカグリン® (屈折率分布型マイクロレンズ)

ガラス素材に関する知見とガラス組成設計技術を活かして開発した、径方向に屈折率分布を持たせた石英系マイクログリンレンズ(超小型屈折率分布型レンズ)です。光ファイバと同じ極細径・同素材であるため、接着剤を使用せずに光ファイバ先端への融着接続が可能で、コリメータ、コンデンサ、側方射出タイプ等をラインナップしています。

光通信やセンサ、医療、次世代を担う分野で活躍する小粒な光学デバイスです。



コリメータタイプ

コンデンサタイプ

側方射出タイプ

お取引先とのかかわり

常に高い倫理感を持って公平・公正・透明な事業活動を行います。

東洋製罐グループは、お取引先に対し、私たちの事業活動を支えてくださる重要なパートナーとして、常に謙虚に正しい取引を行うことを徹底しています。

グループ調達体制

東洋製罐グループでは、東洋製罐グループホールディングス調達センターを中心に、グループ全体の調達業務基盤の整備、強化に取り組んでいます。「東洋製罐グループ資材購買基本方針」「東洋製罐グループ資材購買行動方針」を定め、事業会社各社は、方針に基づきそれぞれ基本ルールを定め、運用しています。

東洋製罐グループ資材購買基本方針

1. 購買取引先と公平な取引を行う。
2. 遵法・倫理に基づき、公正な取引を行う。
3. サステナブル(持続可能)な社会の実現に貢献する。

東洋製罐グループ資材購買行動方針

グループ資材購買基本方針に基づき、資材購買担当者は次の行動方針に則って行動する。

1. 購買取引先と公平な取引を行う

- 広く世界に目を向け、最適な購買取引先を開拓し、競争環境の維持に努める。
- 国の内外を問わず、取引先には公平に機会を提供する。
- 購買取引先と良きパートナーシップを築き、長期的観点より相互理解と信頼関係の維持向上に努める。

2. 遵法・倫理に基づき、公正な取引を行う

- 定められた方針や手順に従って、常に公正な取引を行う。
- 関連する法律及び契約に従って誠実な業務を遂行する。
- 購買取引を通じて知り得た取引先の機密情報を守秘する。
- 第三者の知的財産権などの権利を侵害する購買取引を行わない。
- 不当な目的や手段による利益の追求を行わない。

3. サステナブル(持続可能)な社会の実現に貢献する

- 「低炭素社会の実現」「生物多様性の保全」「資源の有効活用」「社会的課題への対応」を柱とし、グローバルな視点を持ち、それぞれの地域に根ざした購買活動を積極的に推進する。

TOPICS

知っておくと便利な法務の基礎知識DB(データベース)

東洋製罐グループでは、グループ内のイントラネットに「法務の基礎知識」に関するDBを設置し、業務上よくある法務に関するQ&A、業務にかかわる法令情報、取引によく使用する契約書のひな形集およびその解説等を掲載し、従業員に情報として発信しています。また、取引先と締結した契約書は、社内でDB化し、関係部門が必要な場合に閲覧できるようにしており、その利用方法を掲載しています。さらに、2015年4月からは、業務上必要な法務教育を整理・体系化し、提供可能な研修メニューを掲載しています。これらの法務教育は、会社単位、部門単位、事業所単位等、受講者の希望に合わせて実施しています。



株主・投資家とのかかわり

企業価値の向上に努め、情報の適正な管理と開示を行います。

情報開示に対する方針

東洋製罐グループホールディングスでは、ディスクロージャーポリシー(情報開示方針)を定め、会社情報の適時適切な開示を行うことにより、株主・投資家の皆さまの信頼を得ることに努めています。

ディスクロージャーポリシー(情報開示方針)

基本方針

東洋製罐グループホールディングス株式会社は、株主・投資家の皆様への適時適切な会社情報の開示が健全な証券市場の根幹をなすものであることを十分に認識するとともに、当社に対する信頼と適正な評価を得ることを目的として、株主・投資家の皆様との積極的なコミュニケーションを通じ、会社情報を適時に、公平かつ正確に発信いたします。

IR活動の状況

当社は、財務状況・決算等に関する情報のリリース等のほか、積極的に会社情報の開示を行っています。また、マスコミ・アナリスト向けの決算説明会の開催や国内外の機関投資家との個別IRミーティング等を実施しており、当社グループの企業価値を理解していただくことに努めています。

2014年度の主な活動内容

対象者	IR活動
マスコミ アナリスト 国内機関投資家	●決算説明会(中間・期末) ●個別IRミーティング
海外機関投資家	●個別IRミーティング ●証券会社主催カンファレンス参加 ●インベスターズガイドの発行
株主	●報告書の発行(中間・期末)



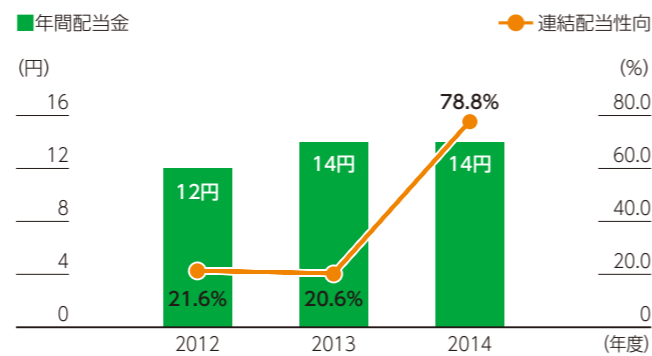
株主還元方針

当社は、グループ全体の業績を向上させることにより、株主還元・利益配分を将来にわたり着実に増加させる努力を継続します。

当社の株主還元・利益配分に関する方針は次の通りです。

- ①配当については、安定的かつ継続的に行うことを基本とし、「連結配当性向20%以上」を基準とします。
- ②内部留保については、中長期的な視点に立ち、積極的かつ機動的に海外事業・新規事業等の将来の成長分野への投資に充当します。
- ③自己株式の取得については、財政状況や株式市況に応じて柔軟に実施します。

配当金の推移

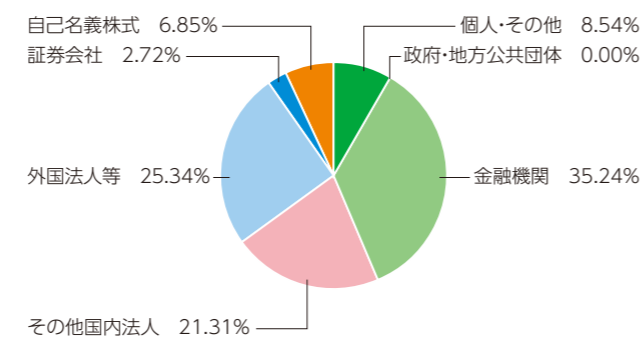


株式の状況

(2015年3月31日現在)

発行可能株式総数 450,000,000株
 発行済株式総数 217,775,067株
 単元株式数 100株
 株主数 6,820名
 上場取引所 東京証券取引所市場第一部(証券コード 5901)

株式の所有者別分布状況



従業員とのかかわり

安全かつ衛生的で元気あふれる職場をつくりまします。

東洋製罐グループが、人類の幸福繁栄に貢献しつづけるための原動力は「人」です。

私たちは常に従業員一人ひとりが、生き生きと誇りを持って働くことができる職場を目指しています。

人材についての考え方

東洋製罐グループは、会社の期待に応えられる人材を育てるために、能力開発の機会や実践の場を通して、従業員一人ひとりの成長を積極的に支援しています。

1. 変革意欲を持った社員に対して、積極的に活躍の機会を与え、成果に見合った評価・処遇を行います。失敗を恐れずに挑戦した姿勢・プロセスも評価します。
2. 積極的に教育研修、ローテーションの機会を与え、個人の成長が事業の成長へつながるしくみをつくりまします。
3. 採用、教育、配属、異動、日常業務の各場面において、多様な人材に対してより公平に活躍の機会を与え、グループの組織を越えて社員同士が連携することを支援します。

グループで連携した人材育成

東洋製罐グループは、教育プログラムの向上、グループ各社の連携強化のために、人材育成に関するグループ内交流を推進しています。グループ共通の集合教育として、次世代リーダー育成を目的とした選抜メンバーによる「TSGBC(東洋製罐グループビジネスカレッジ)」、MOT(技術と経営の融合)をベースとした技術系若手リーダー対象の「TLP(テクニカル・リーダーズ・プログラム)」、論理的な思考法を習得するための「ロジカルシンキング研修」、新任部長・新任課長・新任係長を対象とした「階層別研修」を実施しています。また、社員の自己啓発のサポートとして、通信教育の修了者には受講料を全額補助する制度を設けています。2014年度はグループ会社全体で延べ3,627件の申し込みがありました。

このようなグループで連携した人材育成を進めることで、個社を越えての一体感醸成、人的ネットワーク構築等を促し、「人」の基盤づくりに積極的に取り組んでいます。

グループ共通教育体制図



TLP最終報告会の様子

TSGBC受講者コメント



TSGBCを受講して

東洋鋼鈹
 総務部
 総務・秘書グループリーダー
 浅田 真一郎 (東洋製罐より出向)

1年間のTSGBCの受講を通して、経営に関する知識や業務に取り組むうえでの物事の見方・進め方等を学べたことおよびグループ他社の受講生との交流によって多くの刺激を受けたことは大きな財産となりました。

私は、受講修了とともに東洋製罐グループホールディングスの総務から東洋鋼鈹の総務へ異動となりました。業種や会社を取り巻く環境は異なりますが、目指すべき方向は同じです。視野を広く視座を高く、TSGBCでの学びを活かし、グループの持続的な発展に少しでも貢献できるよう努めてまいります。

従業員とのかかわり

グローバル人材マネジメント

東洋製罐グループの海外拠点はタイ・中国を中心に42カ所あり、145人の海外赴任者が活躍しています。

海外事業のさらなる展開に向け、グローバルに活躍できる人材育成のため、従業員の語学学習のサポートや海外従業員の日本での研修等を行っています。

国別海外赴任者数

国名	赴任者数(人)
タイ	63
中国	42
トルコ	11
マレーシア	7
アメリカ	4
ベトナム	2
その他	16
計	145

【対象】東洋製罐、東洋鋼鋳、東洋ガラス、東洋興業、日本クロージャー、東洋マテリアル・テクノロジー、東洋エアソール工業、東洋製罐グループホールディングス

ダイバーシティマネジメント

東洋製罐グループの持続的な発展のためには多様性(ダイバーシティ)の尊重が不可欠であると考え、CSR基本方針の冒頭に「基本的人権と多様性の尊重」を掲げ、ダイバーシティ施策の一環として女性活躍推進に取り組んでおります。

具体的には、従前より育児・介護との両立支援を中心とした制度面、運用面での充実を進めてまいりました。今後は企業競争力を高めるために、多様な働き方の実現に向けて社内の意識改革を進め、誰もが自己の能力を高め活躍の場を広げていける環境の整備を通して、長期的な視点に立ったキャリア形成を推進してまいります。

従業員および管理職の在籍状況

(2015年3月31日現在)

社員数(人)	8,251	
男女別(人)	男性	7,249
	女性	1,002
管理職数(人)	1,733	
男女別(人)	男性	1,681
	女性	52

【対象】東洋製罐、東洋鋼鋳、東洋ガラス、東洋興業、日本クロージャー、東洋製罐グループホールディングス

安全・衛生活動

東洋製罐グループの安全・衛生活動は、全ての従業員が安全に安心して健康に働ける職場づくりを目指し、取り組んでいます。

安全活動では、各社の委員会組織を中心に、職場の安全パトロール、災害発生時再発防止対応、KY(危険予知)活動等を盛り込んだ活動計画に基づき、継続的かつ積極的な活動を展開しています。

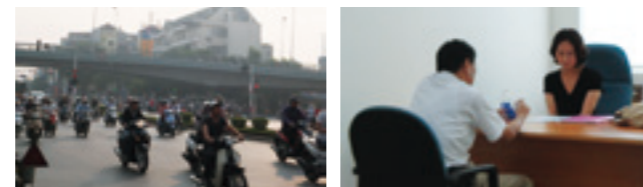
衛生活動では、年間活動計画に基づき、産業医、看護職との連携強化を図りながら、生活習慣病や職業性疾患の予防、メンタルヘルス対策の推進等に取り組んでいます。

事業会社の取り組み

●海外赴任者の健康管理

海外事業の展開にともなう赴任者数の増加や赴任期間の長期化等により、海外赴任者の健康管理は重要なテーマとなっています。

東洋製罐ではベトナム、中国(常熟)を看護職が訪問し、赴任者に対する健康面談や保健指導を実施するとともに、拠点近郊の医療施設を視察し、医療情報の収集を行いました。調査結果は国内外の関係部署にフィードバックされ、問題提起・改善への提案を行いながら、海外赴任者の健康保持増進につなげています。



TOPICS

東洋製罐グループ看護職会議の開催

2015年6月19日、東洋製罐グループ総合研究所にて第3回目となる「東洋製罐グループ看護職会議」を開催しました。

グループ各社の産業看護職が一堂に会し、各社の産業保健活動への取り組み状況の報告、各社が抱える課題に対する解決策等について活発な意見交換を行いました。また、2015年12月から従業員50人以上の事業場に対して義務付けられる「ストレスチェック制度」への対応についての情報交換を行いました。さらに、総合研究所内の見学を行い、自社とは異なる職場環境を自らの目で把握し、幅広い知見を得ることができました。来年以降も各社持ち回りで会議を継続的に開催し、各社の良い点や問題点を相互に共有し従業員の健康保持増進につなげてまいります。

会議の様子



地域社会とのかかわり

地域社会との共生を目指して、地域での交流を大切にします。

東洋製罐グループでは、地域社会の一員として、地域の皆さまとの交流を行っています。各事業所それぞれの特色を活かして、身近なところからできる社会貢献活動を実施しています。

しながわECOフェスティバルへの出展

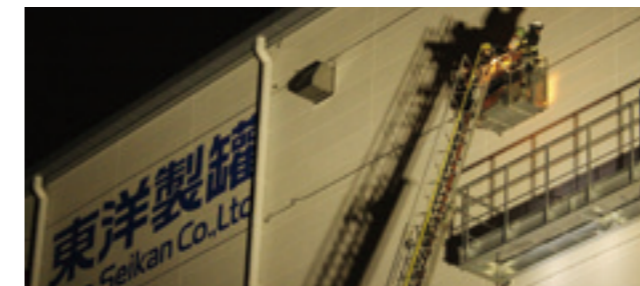
東洋製罐グループは、2014年5月25日に品川区役所前のしながわ中央公園で開催された「しながわECOフェスティバル」に出展しました。環境に優しい容器の展示や、容器を使った工作教室を実施し、普段何気なく利用している容器にも、様々な環境配慮が盛り込まれていることを理解していただく良い機会となりました。



しながわECOフェスティバル

夜間はしご車救助訓練

東洋製罐茨木工場では、茨木市消防署救急救助課への協力として、2015年5月に夜間帯における中高層建築物に対するはしご車訓練のために工場敷地を提供しました。夜間訓練では、第二製品倉庫棟東側の「非常用進入口」を利用して、はしご車による高所からの要救助者の救出や建物への進入訓練が実施されました。



はしご車による高所からの救助訓練

環境イベントへの出展

ペトリファインテクノロジーは、2014年開催の「足立区地球環境フェア2014」および2015年開催の「川崎国際環境技術展2015」に出展しました。

ペトリファインテクノロジーで廃PETボトルをケミカルリサイクルして製造した再生PET樹脂を原料として、東洋製罐グループホールディングスマーケティングセンターがデザインしたジャパンボトルドウォーター製PETボトルの飲料水を、各会場で配布しました。ご来場の皆さまに大変ご好評いただき、東洋製罐グループならではの社会貢献活動となりました。



足立の環境を考えるドラゴン「ミリー」「ドリー」「リリー」

川崎国際環境技術展2015で配布した飲料水

紙コップ回収活動の実施

東洋製罐は、イベント会場やスタジアム等に紙コップ回収カートをご提案し、使用済み紙コップ回収のサポートをしています。紙コップ回収カートを設置することで、来場者、サポーターの方に分別活動に取り組んでいる姿をアピールしています。



NACK5スタジアム大宮に設置した紙コップ回収カート

地域社会とのかかわり

工場見学の受け入れ

東洋ガラスは、地域の方々にガラスびんの製造からリサイクルまでをご理解いただけるよう工場見学者の受け入れを長年にわたり実施しています。見学者は主に小・中・高校生や自治体の紹介による一般消費者の方々に、環境学習の場として利用していただいています。



ガラスびんについて説明する東洋ガラス社員

高校生への学習協力

日本クロージャー平塚工場では、2014年8月に夏休みの自由研究課題への協力として、都内の高校生の受け入れを実施しました。高校生は開発本部の社員に対しインタビュー・質疑応答と、工場見学を行いました。高校生らしい素朴な疑問と率直な感動は、社員にとっても楽しく貴重な機会となりました。



インタビューに答える開発本部の社員

海外グループ会社の取り組み

タイ児童養護施設への訪問

Bangkok Can Manufacturing (BCM) では、毎年創立記念日の前後に慈善活動をしています。



児童養護施設を訪問し、子供たちと交流

2014年は、BCMが所在するPathumthani県の児童養護施設を訪問、食品や、塗り絵セットを寄付し、当日は子供たちに寄付したお菓子を食べてもらい、その後一緒に塗り絵をしました。両親のいない子供たちでしたが、彼らの笑顔に触れることで社員も元気を貰いました。

事業所周辺の美化活動

東洋製罐グループの各事業所では、事業所の周辺を中心に地域の美化活動を実施しています。時には、他の企業や地域の皆さまと一緒に、地域の環境美化に貢献しています。



大崎フォレストビルディング地域環境美化活動
(東洋製罐グループホールディングス、東洋製罐、東洋ガラス、東洋興業、日本クロージャー、日本トーカンパッケージ、本州製罐、東洋エアゾール工業、東洋商事、東洋共栄)



日本クロージャー西部営業部事業所周辺美化活動



東洋鋼板下松事業所事業所周辺美化活動



東洋興業小牧工場工場周辺美化活動

地球環境とのかかわり

地球環境の保全と質的改善に、積極的に取り組みます。

環境経営推進体制

グループ環境方針

東洋製罐グループは、2002年にグループ環境方針を制定しました。各社はこの基本理念に基づき事業活動を行っています。

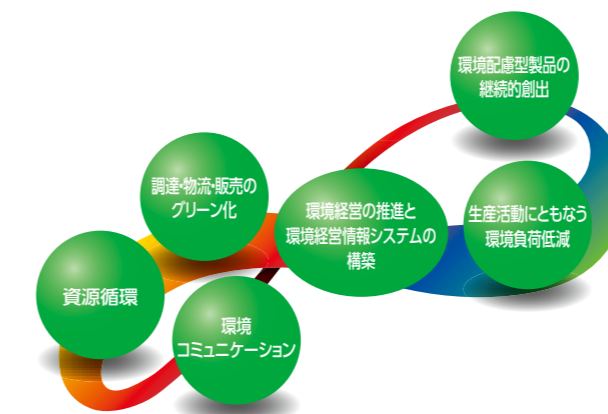
基本理念

東洋製罐グループ各社は、地球環境の保全、さらには地球環境の質的改善が人類共通の最重要課題であることを強く認識し、企業活動のあらゆる面で環境に対するきめ細やかな配慮を行いつつ、人類の生活文化の向上に貢献します。

グループ環境ビジョン

東洋製罐グループの環境経営実現のため、6項目からなるグループ環境ビジョンを2004年5月に策定しました。グループ各社は、調達、生産、流通、消費、廃棄・リサイクルと、サプライチェーン全体での「包みと地球環境の調和」を目指し、全員参加による環境経営の推進に取り組んでいます。

- I. 環境配慮型製品の継続的創出
- II. 生産活動にともなう環境負荷低減の推進
- III. 調達・物流・販売のグリーン化の推進
- IV. 資源循環の推進
- V. 環境コミュニケーションの推進
- VI. 環境経営の推進と環境経営情報システムの構築



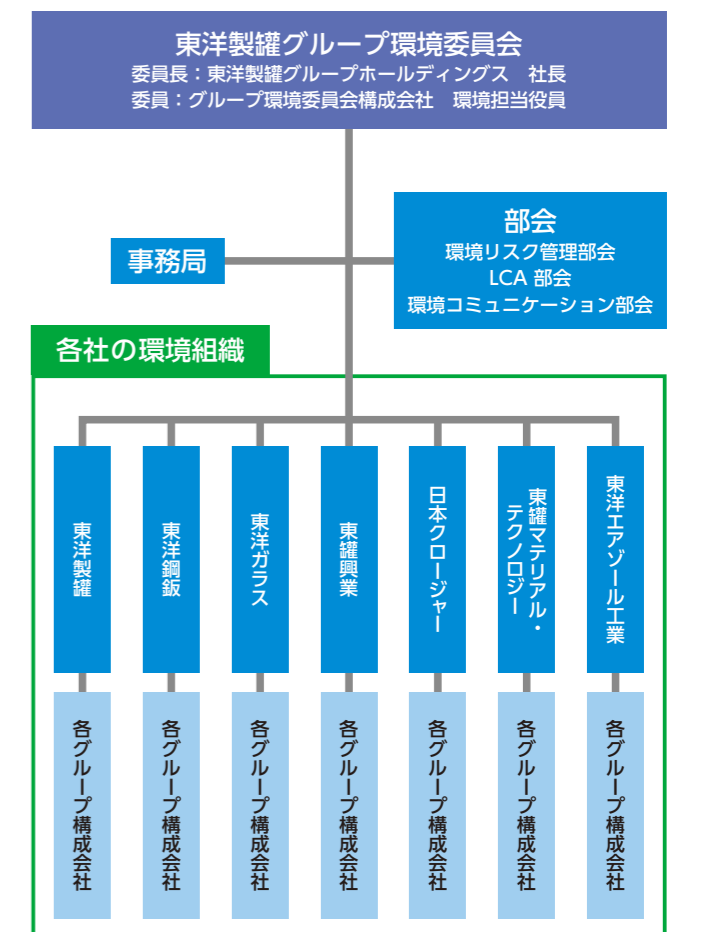
グループ環境管理体制

東洋製罐グループでは、東洋製罐グループホールディングスの社長を委員長として東洋製罐グループ環境委員会を組織し、グループ全体の環境経営を推進しています。

2013年4月のホールディングス体制移行にともない、環境管理体制の一部見直ししました。

グループ全体の環境経営は、年2回の環境委員会にて審議、決定し、年6回の事務局連絡会にて、進捗管理を行っています。グループ各社は、グループ環境委員会での決定事項に基づき、その内容を自社で展開し、各社の環境管理活動を推進しています。

東洋製罐グループの環境管理体制



地球環境とのかかわり

地球環境とのかかわり

エコアクションプラン2015

東洋製罐グループでは、グループ環境ビジョンの実現に向け、具体的な環境目標と行動計画の中期目標であるエコアクションプランに基づき、グループ各社で目標達成に向けて取り組んでいます。

エコアクションプラン2015

東洋製罐グループでは、2006年より、5年間の中期目標である「エコアクションプラン」を策定し、グループの環境経営を推進しています。

2011年度に策定したエコアクションプラン2015からは、対象拠点を国内グループ会社主要拠点のみか

ら、国内グループ会社全拠点へと拡大し、グループ一体となってさらに環境経営を推進しています。

2014年度 活動報告

2014年度の活動結果は、下表の通りです。9項目中、4項目が達成、5項目が未達成となりました。

エコアクションプラン2015 2014年度の活動結果

環境ビジョン	具体的項目と環境目標	2014年度			2015年度目標		
		目標	実績	評価			
事業活動にともなう環境負荷低減の推進	エネルギー消費量原単位の削減	7.6%削減	9.7%削減	省エネ活動の推進により、目標達成	★★★★	8.5%削減	
	CO ₂ 排出量の削減(1990年度比)	19%削減	8%削減	P35参照	★	20%削減	
	物質投入量原単位の削減	2.9%削減	3.5%削減	軽量化等の取り組みにより、目標達成	★★★★	3.3%削減	
	廃棄物削減とゼロエミッションの推進	①廃棄物物理立量の削減	48%削減	22%削減	P35参照	★	48%削減
		②ゼロエミッション拠点数の増加(再資源化率99%以上)	120拠点	129拠点	再資源化の推進により、目標達成	★★★★	131拠点
	化学物質管理	①PRTR法対象化学物質の排出・移動量原単位の削減	10%削減	15%増加	各種素材の生産量増加により、排出・移動量が増加	★	12%削減
②トルエン・キシレン等有機溶剤の排出移動量の削減		14%削減	1%増加	塗料・接着剤の水溶性化や無溶剤化を推進するも未達成	★	16%削減	
調達・物流・販売のグリーン化の推進	物流工程でのCO ₂ 排出量原単位の削減	8%削減	9%削減	省人化、業務効率化推進により、目標達成	★★★★	9%削減	
資源循環の推進	マテリアルリサイクル率の向上	94%	93%	P35参照	★★	94%	

評価指標：★★★★目標を達成できた ★★★目標に対してわずかに未達成 ★取り組みが不十分
 対象：国内グループ会社全拠点
 基準年：2009年度

3Rの取り組み

東洋製罐グループでは、限りある資源を有効に活用するため、3Rの考え方に基づいて、容器の設計から使用後のリサイクルまで、循環型社会の構築に向けた取り組みを行っています。

3R

3Rとは、リデュース (Reduce：使う量を減らし不要となる物の発生量を減らす)、リユース (Reuse：繰り返し使う)、リサイクル (Recycle：もう一度資源として利用する)の頭文字をとったもので、ゴミの削減、循環型社会の構築に向けたキーワードです。

家庭から排出されるゴミの容積の50%、重量の25%を容器包装が占めていると言われています。東洋製罐グループでは、容器包装を製造する事業者の責任として、容器包装の3Rに取り組んでいます。

リデュース 容器の軽量化

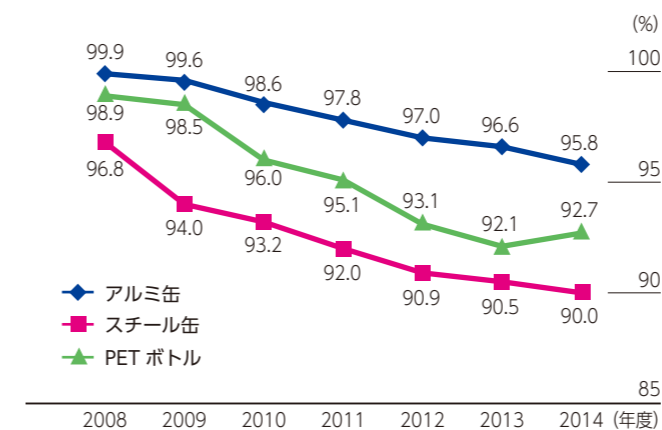
東洋製罐では、限りある資源を有効に利用する取り組みとして、容器包装の軽量化を進めています。容器を軽量化することで、原材料となる資源の使用量や製造するときのエネルギー消費量を削減しています。

スチール缶は、より薄い鋼板を使った軽量缶への切り替えが進み、2004年度比では10%の軽量化となりました。アルミ缶も、薄いアルミ板を使うことで4.2%の軽量化となりました。PETボトルは2013年度比で重量が増えていますが、軽量化ボトルの増加により2004年度比では7.3%の軽量化となりました。

また他容器でも軽量化を推進しており、天然資源や

飲料用容器の重量変化

重量比 (%) [2004年度基準]



エネルギーの節約だけでなく、廃棄されるゴミの削減にもつながっています。容器製造に携わる者として、容器の軽量化に引き続き取り組んでまいります。

リユース リターナブルびん

「循環型社会」や「3R」といった言葉が世の中に出てくる以前より、ガラスびんはリユース (リターナブル) 容器として多く使用されてきました。東洋ガラスでは一升びんやビールびん、牛乳びんはもちろん、調味料や飲料びんまで数多くのリユースびんを提供しています。またコーティング技術を駆使し、傷が付きにくく割れにくいリユース可能な超軽量びんを開発することで、持続可能な社会の実現に貢献しています。



超軽量900ml牛乳びん(東洋ガラス)
 リターナブル性能を有したまま、従来の牛乳びんの40%軽量化を実現しました。

リサイクル キャップリサイクルプロジェクト

日本クロージャーが加盟する一般社団法人日本キャップ協会では、関係各企業・大学等の協力を得て、PETボトル用プラスチックキャップの店頭回収・リサイクルの有効性に関する実証活動を展開しています。また、東洋製罐グループホールディングスおよびグループ各社が入居する大崎フォレストビルディングでは、同協会と協力し、プラスチックキャップの資源化を推進しています。リサイクルされたキャップの売却により得た利益は、社会貢献活動団体に寄付されています。



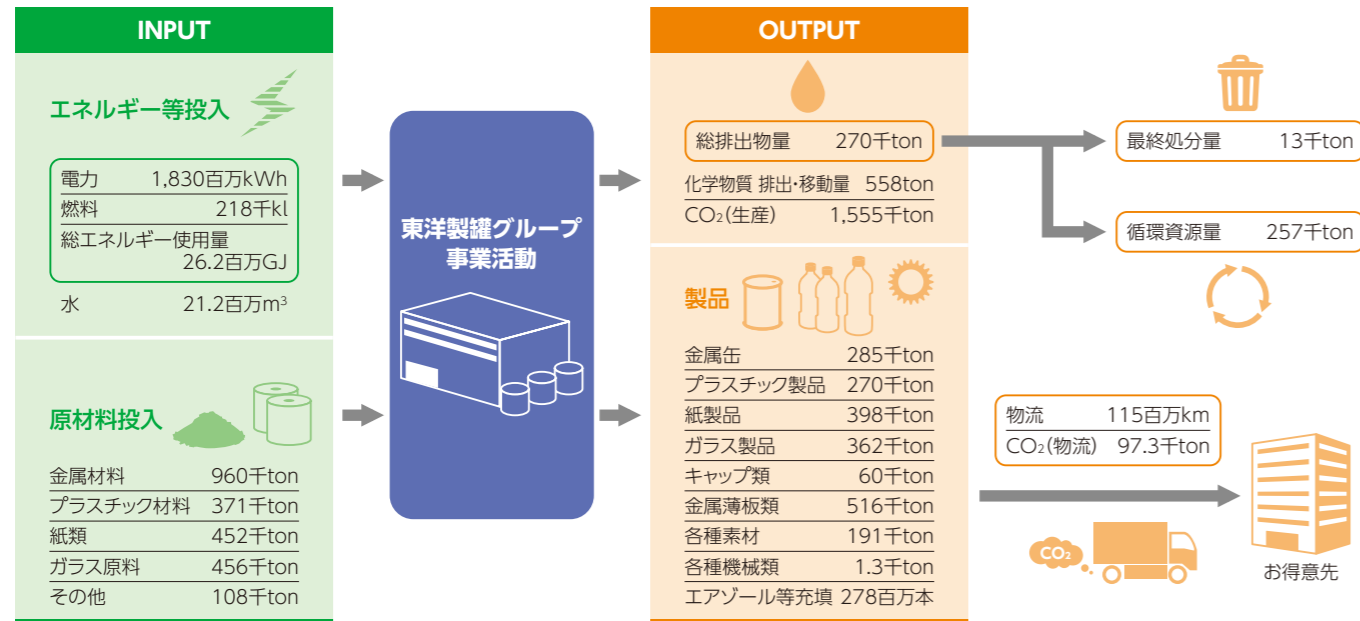
各階に設置しているキャップ回収ボックス

地球環境とのかかわり

事業活動にともなう環境負荷

東洋製罐グループは、金属、プラスチック、紙、ガラスを原材料として、缶、プラスチック容器、ガラスびん、紙容器、キャップ等の各種容器、および金属薄板、各種素材、機械類、エアゾール製品等を製造しています。その過程で、エネルギーを消費し、CO₂や廃棄物を排出しています。全体の物質収支を把握することで、グループ全体の環境負荷の低減に取り組んでいます。

東洋製罐グループ2014年度物質フロー



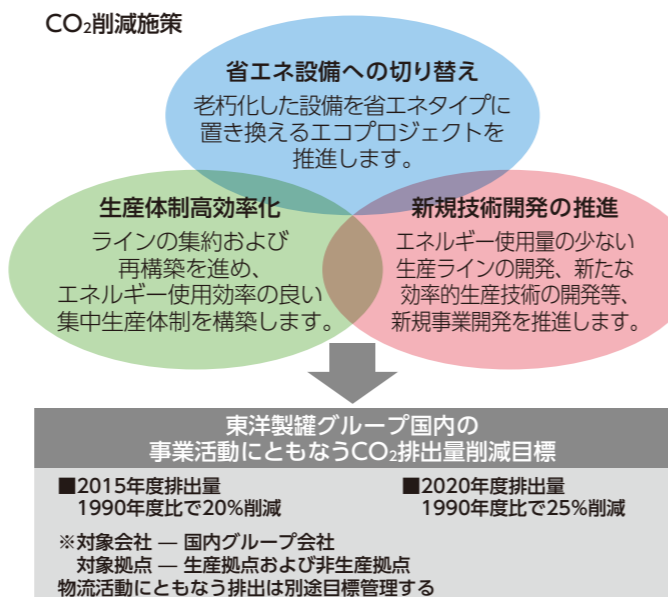
CO₂削減への取り組み

東洋製罐グループは、地球全体の課題である温暖化防止のために、グループ一体となってCO₂の削減に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献しています。

地球温暖化防止に向けて

東洋製罐グループの各工場では、電力、燃料等のエネルギーを消費し、製品を製造しています。そのため、製造事業者の重要な社会的責任として、省エネルギー、資源の有効利用等、様々な施策を実施し、CO₂の削減に取り組んでいます。

具体的目標として、エコアクションプラン2015の中でCO₂排出量の削減を活動項目に掲げて取り組んでいます。地球温暖化防止については、長期的な取り組みが必要なため、中期経営計画の将来予測等を用い、2020年度の目標値も設定しています。非生産拠点を含まないグループ国内全拠点を対象範囲とし、グループ丸となって推進しています。



地球環境とのかかわり

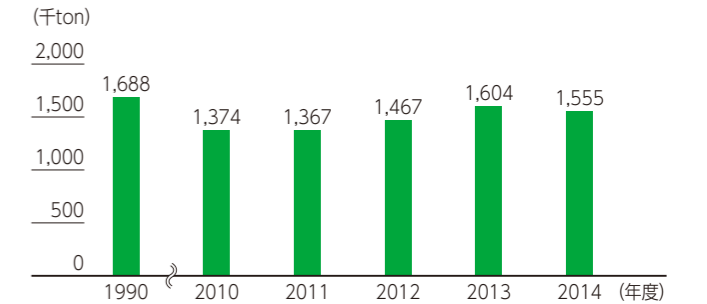
CO₂排出量の実績

2014年度の東洋製罐グループのCO₂排出量は、1,555千tonと前年度に比べて49千tonの削減となりましたが、2014年度の目標1990年度比19%削減は達成できませんでした。プラスチック製品の生産量の増加や、電力のCO₂排出係数が増加したことが影響しました。

各事業所では、生産体制の再構築、計画的な高効率設備への設備更新を実施しているほか、改善提案や他事業所の取り組みの水平展開により、地道な改善を積

み重ねることで、さらなる削減に努めています。

CO₂排出量の推移



廃棄物削減への取り組み

東洋製罐グループでは、廃棄物の削減、再資源化の推進に積極的に取り組み、限りある地球資源の有効活用に努めています。

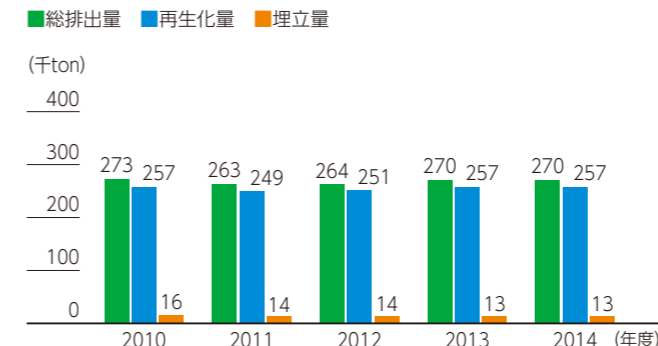
廃棄物の削減

東洋製罐グループでは、限りある地球資源を有効に活用し、廃棄物の削減に努めるとともに、やむを得ず廃棄となる排出物については、再資源化を積極的に推進し、グループ各拠点でのゼロエミッションの達成に取り組んでいます。2014年度は、全191拠点中、129拠点でゼロエミッションを達成しました。

廃棄物削減の実績

2014年度の有価物を含めた総排出量は、前年度に比べて0.4千ton減少し、270千tonとなりました。そのうち、総排出量の95.2%にあたる257千tonがリサイクルされました。リサイクルされずに埋立処理(直接埋立処理または単純焼却後に埋立処理)された量は、前年度に比べて0.4千ton減少し、13千tonとなりました。さらなる埋立量の削減のため、分別の徹底や、廃棄物処理業者と協力しながらリサイクル手法の検討を推進しています。

廃棄物排出量の推移



資源循環の推進

東洋製罐グループでは、サーマルリサイクル*1処理を行っている廃棄物についても、リサイクルの質的改善を目指し、マテリアルリサイクル*2への転換に向けた活動を推進しています。

- *1 **サーマルリサイクル**
ゴミを燃やし、その際に発生する熱をエネルギーとして利用すること。
- *2 **マテリアルリサイクル**
使用済み製品や生産工程から出るゴミ等を回収し、利用しやすいように処理して、新しい製品の材料または原料として使うこと。

2014年度のマテリアルリサイクル率(廃棄物総排出量に対するマテリアルリサイクルされた量の割合)は、前年同様で93.1%となりました。埋立量の削減同様に、分別の徹底や、処理手法の検討等により、より質の高いリサイクルを目指しています。

リサイクル率の推移

